

中学 3 年 国語科 教材別テスト⑨ 「故郷」 模範解答・解説

教材別リメイク版 中学 3 年 国語 / 「故郷」(魯迅・竹内好訳)・光村図書『国語 3』

【このテストの使い方】

本文は載せていません。教科書『国語 3』の「故郷」のページを開いたまま解答します。この作品は、二十年ぶりに故郷へ帰った「私」が家を引き払うまでを一人称の回想で語る小説です。情景描写と心情の照応、記憶と現実の落差、人と人を隔てるもの、そして最後の希望をめぐる思索の四つが読みの柱になります。記述問題を多めにして、「気持ち」「意味」を自分の言葉でまとめる力をみます。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き (20問)	1 点×20=20 点
	二	語句の知識 (語彙・対義語・類義語・四字熟語・慣用句・熟語の組み立て)	2 点×7=14 点
	三	文法 (助詞・助動詞の識別)	1 点×16=16 点
思考・判断・表現 50点	四	「故郷」の読解 (12問)	50点
合計			100点

【出題のねらい】

- ① 「れる・られる」「ようだ」「そうだ」「ない」など、形が同じで働きのちがう語を見分けられるか。
- ② 冒頭の荒涼とした冬の風景が、「私」の心情と重ねられていることに気づけるか (情景描写と心情の照応)。
- ③ 記憶の中の故郷・少年のルントウと、目の前の故郷・再会したルントウとの落差をとらえられるか。
- ④ 二人の間にできた「厚い壁」が、身分や境遇の差によるものだと説明できるか。
- ⑤ 最後の「希望」をめぐる思索 (疑いから、歩く人が道をつくるという考えへ) を自分の言葉で書けるか。

一 漢字の読み書き (1点×20=20点)

番号	解答	番号	解答
①	こうりょう	⑪	残酷
②	ふんいき	⑫	犠牲
③	きょうぐう	⑬	感傷
④	けんきょ	⑭	実感
⑤	へだ (てる)	⑮	努力
⑥	おとろ (えた)	⑯	距離
⑦	そえん	⑰	習慣
⑧	ひんこん	⑱	将来
⑨	した (う)	⑲	乏しい
⑩	なごり	⑳	懐かしい

小計 20点

【注意したい字】

①「荒涼」の「涼」はさんずい。にすいの「涼」や、「亮」と書かないこと。②「雰囲気」は「ふんいき」と書く・読む誤りが非常に多い。ふ・ん・い・き。④「謙虚」の「謙」はごんべん。「嫌」「兼」と混同しない。⑤「隔てる」⑥「衰えた」⑨「慕う」は送りがなまで必要（「隔る」「衰た」は×）。⑩「名残」は熟字訓で「なごり」。「めいざん」は×。⑬「感傷」はどちらも画数が多い。「感」は「巨」、「傷」の右側は「佳」。⑮「努力」は「とぼしい」。「乏」を「之」と書かない。送りがなは「しい」まで書く。⑰「習慣」の「慣」はりっしんべん。送りがな「かしい」まで書く。

二 語句の知識 (2点×7=14点)

番号	解答	解説
(1)	ア	「荒涼」＝荒れ果てて、もの寂しい様子。冒頭の冬の故郷の描写を言い表すのにぴったりの語で、この作品を読むときのキーワード。
(2)	ア	「よそよそしい」＝親しいはずの相手に対して、他人のように距離をとる態度。再会したルントウのふるまいを説明する語。イ「なれなれしい」はほぼ反対の意味。
(3)	絶望	希望 ⇄ 絶望。「失望」は「期待が外れてがっかりする」意味なので、対義語としては「絶望」が最も適切。
(4)	イ	「境遇」＝その人の置かれている立場・暮らしのありさま。「身の上」が最も近い。ア「境界」は区切り、ウ「境地」は心の状態。
(5)	無量	「感慨無量」＝しみじみと感じ入る思いが限りないこと。「感無量」とも言う。「無料」と書く誤りに注意。
(6)	腹	「腹を割って話す」＝本心を隠さず打ち明ける。「胸」「腹」「肝」など体の部分を使った慣用句はまとめて覚える。
(7)	イ	「貧困」＝「貧しい」と「困る」で似た意味の組み合わせ。同じ型は「困難」。ア「高低」は反対の意味、ウ「読書」は「書を読む」で目的、エ「寒風」は修飾の関係。

小計 14点

三 助詞・助動詞の識別 (1点×16=16点)

番号	——線部	解答	解説 (見分け方)
(1)	呼ばれる	ア 受け身	「友人に」と動作をする相手が示されている。「～によって～される」と言いかえられれば受け身。
(2)	食べられる	イ 可能	「～することができる」と言いかえられる。
(3)	思い出される	ウ 自発	「自然に」「ひとりで」を補えて意味が通る。「思い出される」「感じられる」「しのばれる」など、心の働きを表す語に多い。
(4)	出られる	エ 尊敬	主語が敬うべき人(校長先生)。「お～になる」と言いかえられる。
(5)	ようだ	ア 推定	根拠(空が暗い)から判断している。「どうやら」を補える。
(6)	ようだ	イ 比喻	文中に「まるで」があり、水面を鏡にたとえている。「AはBのようだ」というたとえの形。
(7)	そうだ	ア 様態	動詞の連用形(降り)に付く。「今にも」「いかにも」を補える。

(8)	そうだ	イ 伝聞	動詞の終止形（帰る）に付く。「～という話だ」と言いかえられる。接続する形で見分けるのが確実。
(9)	ない	ア 打ち消しの助動詞	「書かぬ」と言いかえられる。活用語の未然形に付く。

三 助詞・助動詞の識別 (つづき)

番号	——線部	解答	解説 (見分け方)
(10)	ない	イ 形容詞	「何もない」＝「存在しない」という意味を、この語だけで表している。「ある」の反対で、一語で述語になれる。「ぬ」に置きかえられない（「何もぬ」とは言えない）のが決め手。
(11)	ない	ウ 補助形容詞	「おもしろく」＋「ない」。直前が形容詞の連用形で、間に「は」を入れられる（おもしろくはない）のが決め手。
(12)	で	ウ 手段・道具	「小刀を使って」と言いかえられる。
(13)	で	エ 原因・理由	「大雨のせいで」と言いかえられる。同じ「で」でも意味が変わる。
(14)	の	カ 主語を表す	「私が生まれた村」と「が」に置きかえられる。置きかえられれば主語を表す「の」。
(15)	ので	イ 接続助詞	前後の文（節）を原因・理由の関係でつないでいる。「から」「のに」「ても」なども接続助詞。

(16)	な	エ 終助詞	文末にあって、話し手の気持ち（願い・感動）を添えている。「よ」「ね」「か」「ぞ」も終助詞。
------	---	-------	---

小計 16点 / 知識・技能 合計 50点

【識別のコツ】

- ① 「そうだ」は接続する形で決まる（連用形＝様態／終止形＝伝聞）。② 「ようだ」は「まるで」が入るかで決まる（入れば比喻／入らなければ推定）。③ 「ない」は「ぬ」に置き換えられるか（置き換えられれば助動詞）、だめなら「は」を入れられるか（入れば補助形容詞）、どちらも違えば形容詞。④ 「の」は「が」に置き換えられるかで主語の「の」を見分ける。

四 「故郷」の読解（50点）

番号	解答	解説・採点のポイント
(1) 4 点	ア	二十年ぶりの帰郷で、家を引き払う（人手に渡す）ための旅であることが設定の土台。語り手は「私」自身で、一人称の回想。イの「すべての人物の心の中を説明する」三人称、ウ「レントウが語り手」、エ「作者の解説」はいずれも誤り。
(2) 3 点	イ	一人称では、見えたものがすべて「私」のフィルターを通る。だから景色の描写がそのまま心情の描写になる。ア「全員の心の中」は三人称全知の語り方。
(3) 4 点	(例) 荒涼とした風景に、私の寂しく沈んだ心情を重ねて表すため。 (28字)	「風景（情景）」（1点）＋「寂しい・沈んだ・わびしいなどの心情」（2点）＋「重ねる・照応させる・暗示する」（1点）で採点。 「冬だと知らせるため」「季節を説明するため」のように説明のためだけとしたものは0点。「～ため。」の形で結んでいないものは－1点。二十五～三十五字から外れたら－1点。
(4) 4 点	ウ	「私」は寂れた故郷に落胆する一方で、自分の記憶が美化されていたのではないかと疑う。このゆれが重要。ア・イは事実と反する。エは故郷への思いを否定しており誤り。
(5) 3 点	イ	少年のレントウは、海辺や畑の知識が豊かで、「私」にとって外の世界を見せてくれる輝かしい存在だった。この記憶が明るいからこそ、再会の落差が重くなる。
(6) 4 点	ウ	やせ衰えた体や、荒れてかたくなった手は長年の労働と貧しさの跡。昔の明るさやのびやかさを失い、昔のように対等にふるまえなくなった姿が表れる。アの「自然のなりゆき」では、貧困という社会的な原因が落ちるので誤り。

四 「故郷」の読解（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(7) 4 点	(例) 思いがけない呼び方に衝撃を受け、二人の隔たりを悲しく思う気持ち。(32字)	「衝撃・動揺・ショックを受ける」(1点) + 「悲しい・寂しい・やりきれない」(2点) + 「隔たり・距離・壁を感じる」(1点) で採点。 「腹が立つ」「見下されたと怒る」は0点(「私」は怒っていない)。「うれしい」「なつかしいだけ」も0点。「～という気持ち。」で結んでいないものは－1点。二十五～三十五字から外れたら－1点。
(8) 5 点	(例) 身分や暮らしの差が、心を通わせることを妨げ、二人を深く隔ていること。(35字)	「身分・境遇・暮らし(経済)の差」(3点) + 「心が通わなくなる／隔てられる」(2点) で採点。 本当の壁があると考えた具体物としての説明(例「家の壁が厚い」)は0点。「久しぶりだから照れている」など一時的な気まずさにとどめたものは2点まで。「～こと。」で結んでいないものは－1点。三十～四十字から外れたら－1点。
(9) 3 点	イ	ヤンおぼさんの行動は、個人の悪さの話ではなく、貧しさが人の心をすり減らし、人間関係まで荒れさせていくことを示す場面。ルントウの変化と同じ根をもつ。
(10) 4 点	(例) 若い世代に、自分たちが経験しなかった新しい生活への希望を託すこと。(33字)	「若い世代・子どもたち」(1点) + 「自分たちが経験しなかった新しい生活」(2点) + 「希望を託す」(1点) で採点。 「二人が仲よくなって楽しそうだ」のように場面をなぞっただけのものは0点。かつての「私」とルントウの関係が、次の世代でくり返されるのか／変えられるのかという問いを含む場面であることをおさえる。「～こと。」で結んでいないものは－1点。二十五～三十五字から外れたら－1点。
(11) 6 点	(例) 希望も偶像にすぎないと疑いながらも、人が歩けば道は生まれると考え直した。(36字)	この教材最大の読みどころ。①希望は自分の手で作った偶像ではないかという疑い(3点) + ②それでも、歩く人がふえればそこに道ができるという結論(3点)の二点で採点。 どちらか一方だけなら3点。「希望をなくしてあきらめた」は0点(疑いで終わっていない)。「必ず希望はかなうと確信した」も0点(疑いをくぐった上での考え直しであることが大事)。三十～四十字から外れたら－1点。

四 「故郷」の読解（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(12) 6 点	(例) 希望とは、ただ願うだけのものではなく、多くの人が行動を重ねることで初めて現実になるものだと考える。(49字)	【ループリック】 A（6点）…「希望」についての自分の考えが明確で、作品の思索（偶像への疑い／歩く人が道をつくる）とつながっており、四十～五十字におさまっている。 B（4点）…自分の考えは書けているが、作品とのつながりが弱い、または字数を1～5字外れている。 C（2点）…感想（例「希望は大切だと思った」）にとどまり、理由や内容の説明がない。 D（0点）…無解答、作品と無関係、または本文の言いかえだけで自分の考えがない。 ※字数を6字以上外れた場合はさらに－1点。

思考・判断・表現 合計 50点 / 総合 100点

【この教材で落としやすいポイント（8つ）】

1. この作品は一人称の回想。見えている景色はすべて「私」の心を通した景色で、情景描写＝心情描写になっている。
2. 冒頭の荒涼とした冬の風景は、季節の説明ではなく「私」の沈んだ心の前置き。ここを説明文として読むと（3）を落とす。
3. 故郷の落差を、「私」は現実への落胆と記憶の美化への疑いの両面で受けとめている。片方だけでは不十分。
4. 少年のレントウは明るく物知りで、外の世界を見せてくれた存在。この輝きを押さえないと、再会の場面の重さが出ない。
5. レントウの変化の原因は貧しさと苦労という境遇。「年をとったから」では読みが浅い。
6. 「厚い壁」は身分・境遇の差が心を隔てることのたとえ。「私」は怒っているのではなく、悲しんでいる。
7. ヤンお婆さんの場面は、貧困による人心の荒廃を示す。個人の人格の問題として読まないこと。
8. 最後の「希望」は、疑いをくぐった上での結論。「偶像ではないか」という疑いと「歩く人が道をつくる」という考え直しを両方書くのが（11）の必須条件。

